平成 29 年度　帰国者報告会・歓迎会

平成２９年６月１０日（土）に帰国者報告会・歓迎会がピュアリティまきびで行われました。今回は４名の先生方が帰国報告をしてくださいました。

＜帰国者報告会＞

○会長あいさつ（山本義人会長）

この度県の会長になりました，岡山市千種小学校の山本です。今日はお忙しい中お集まりいただき，ありがとうございます。

この度７名の方を県から世界に送り出し，７名の方が帰国されました。世界情勢が慌ただしい中，３年間また４年間勤められ，いろいろなご苦労があったことと思います。日本を離れて日本と違う文化の中で暮らして，いろいろな財産が増えたのではないでしょうか。今日はいろいろとお話を聞かせていただきたいと思います。

私も学校や講演会で話す中で，いろいろなところから「変わった体験をもっているから是非お話をして欲しい。」と言われます。公民館の講座で話をして欲しいというお話もきております。私は自分の近くから話をしていって，子ども達が１人でも２人でも海外に興味をもってくれたら嬉しいと思っています。

今日はお忙しい中参加していただいていますので，有意義な時間にして参りましょう。

○帰国者報告

神田　進先生（シラチャ日本人学校：校長）

学校経営の面から子ども達のために貢献したいという思いで校長として行ってきました。４年間シラチャ日本人学校に勤めましたが，学校が山の中，畑の中にありまして，田舎だなあと思いました。

教員の確保という面で，大変な面がありました。若い先生が５人もいまして，研修を行って育成をしました。しかし，いろいろなトラブルもあり，「県の代表なんだから頑張ろう。」と励ましたこともありましたが，途中で帰国される先生もいました。

教育課程の面では，文科省のものプラスタイの学習もしました。授業時数では，高学年の確保が難しかったですが，登校日などを設けて確保をしました。

タイは男性も女性もみんなニコニコしています。そしてみんな親切です。料理もおいしいです。ぜひタイに行ってみて下さい。

春日　二郎先生（パース日本人学校：校長）

みんなにうらやましがられながら行きましたが，行ってみると学校が様々なトラブルを抱えていました。先生のトラブルもあり，生徒数もだんだんと減っていましたが，信頼回復に努めて少しずつ生徒数も持ち直すことが出来ました。いろいろのすったもんだの末，１０ｋｇやせましたが，他の先生方の話を聞いて励まされながら頑張ることが出来ました。

パースは世界一美しい町と言われており，芝生が敷き詰められているところがたくさんあって，休日にはピクニックなどしている人がたくさんいます。パースがある西オーストラリア州は農産物が豊富で，食べものもおいしいです。

あちらの道徳心の様子ですが，横断歩道では赤信号でも車が来なかったら渡ります。制限速度１１０ｋｍの道

路があります。当然ここでは１１０ｋｍで走ります。学校の近くでは４０ｋｍの制限速度でしたが，そこでは４０ｋｍで走ります。制限速度をきちんと守って，それ以上は出しません。なぜかというと，とても罰金が高いんです。そういう国ですので，一度愕然としたのが，道徳の授業でこんなことをしてしまった時にはどうしたらいいですかと発問したところ，「罰金でいいんじゃない。」と子ども達が言うんです。それ以上の意見がなかなか出てこないのです。道徳心の面では難しいところがあるなと実感しました。

オーストラリアでは買い物に行ったらレジが行列になります。食べたいものがあったら結構並ぶんですが，決して割り込まないんです。私が買い物に行って，大きなカートで一週間分の買い物をしたんですが，私の後ろにジュースを一本もっている若者がいました。先に行けと行ったんですが，行かないんです。それを考えると，罰金だけで育まれた道徳心ではないことが分かります。落としたものもかなりの確率で戻ってきます。

オーストラリアと日本の関係ですが，第二次大戦でオーストラリアを攻撃したのは日本だけです。当時の戦争の様子を展示している資料館に行きましたが，ものすごく残酷な資料が多く，ほとんど撮影できませんでした。説明してくれた人のお父さんは，当時日本軍の収容所にいて，今でも決して日本兵を許していないし，自分もそうだと言っていました。ただ，それは今の日本，そして日本人ではない。今の日本，日本人は尊敬できると言っていました。その様子からあまりにも日本人はいろいろと知らないなと実感しました。

守安　真好先生（メルボルン日本人学校：教諭）

メルボルン日本人学校は、住みやすい都市ランキング１位に６年連続で選ばれたメルボルンの中心部から車でおよそ２０分程度南下したところにあります。周辺は閑静な住宅街や大きな公園があります。生徒数は昨年度末７７名、幼稚園年長～中３まで１クラスずつあり、全部で１０クラスあります。カリキュラムの特徴としては、英語圏ということもあり英語やＥＡＬ(English as an Additional Language)の授業が大変充実していることです。さらに、そこで習った知識を元に、現地校との交流学習や現地の行事に積極的に参加することで、より深い知識の定着や応用力を身につけさせるようにしています。

２０１５年度には、３０周年を迎えるとともに、新たに運動場やホームページなども一新されました。３年間で１，４，６年の算数、４年理科、中学技術家庭科など自分の専門外の教科を経験することができました。その経験から、小１から中３までの算数、数学のカリキュラムの流れを掴むことができたように思います。また、理科や技家の授業では、日本で使うような教材が思うように手に入らず苦労しましたが、現地の材料を使い、臨機応変に工夫して授業をすすめました。

校務分掌では、３０周年実行委員会の委員として１年目から企画や運営に携わることができました。３０周年式典での目玉となる新しい壁画を全生徒、全職員で協力して作り上げていったことが、自分にとって何より代えがたい素晴らしい経験となりました。

研究主題「オーストラリアの算数・数学教育」として、ＮＡＰＬＡＮテストの内容やオーストラリアの数学カリキュラムについて調べ、さらに現地中学校や小学校に行き算数・数学の授業の様子を見学しました。また、日本人学校の生徒にもオーストラリアの数学の問題を体験させるため、ＡＭＣ(Australian Mathematics Competition)への参加を呼びかけ、実際に数名が受験し、成果を収めることができました。

派遣を通して，ＥＡＬや英語教育，交流学習を通して，コミュニケーションの大切さを知る一方で、言語を習得することの困難さと重要性を改めて感じました。

小学生に算数を教える経験から、算数から数学の９年間の義務教育の流れを実際に体験することができ、小中の学習内容の連携の重要性を再確認することができました。

壮大かつ美しいオーストラリアの大地と突き抜けるように青い大空のもとで、素晴らしい生徒、保護者、先生、そして現地の方々に出会えたことをまずは感謝したいと思います。３０周年記念行事が大成功したの

も、周囲の人々の支えのおかげだと思います。

山本　健太郎先生（ニュージャージー日本人学校：教諭）

ニュージャージー州はアメリカ東海岸に位置し，NY 州とも隣接しています。緯度は青森県くらい，面積は秋田県と近いそうです。日本と同様に四季があり，冬場はマイナス２０度近くまで気温が下がることもあります。

私が生活をさせていただいていたのは Waldwick というニュージャージーの北に位置する小さな町で，治安もよく普通に外を歩くこともできました。全体的に子どもに対してやさしく，子連れで行動していると親切にしてもらう場面がたくさんありました。物価は非常に高く，感覚的には日本の２倍かそれ以上に感じました。

日本と比べて感じたことは，本当によくあいさつを交わすこと（知らない人同士が）です。それからアルコールや喫煙への制限が非常に高いことです。(喫煙者を見かけたり匂いをかいだりすることがありませんでした。)

ニュージャージー日本人学校は小中一貫の学校で全児童生徒数は６０人弱です。特徴としては，少人数指導，毎日の英語の授業，教科担任制，などがあります。日本の学校と同様の行事を行いながらも，アメリカ文化も意識していて，例えば，「ハロウイーン」「サンクスギビングデイ」なども積極的に大切にしていました。

私はそんなニュージャージー日本人学校で主に３年間，体育的な立場の分掌を任されていましたので，子どもたちの課題であった「体力面の強化」を特に力を入れて他の派遣教員の先生方と協力して行いました。

取り組んだことは一つ目に寺子屋という活動です。夏休み期間中に１０日ほど，運動を中心に活動を計画しました。例えば，テニス・サッカー・バスケットボールのようなスポーツに取り組みました。その後，子どもたちは自主学習をしてお昼すぎに帰宅します。

二つ目は駅伝大会です。体育の授業で練習した持久走の発表の場として１０月に駅伝大会を学校の敷地内を用いて行いました。小学１年生から中学３年生までがタスキをつないでがんばって走ります。

三つ目は新体力テストを年間２回実施しました。２回目を行うことで自分の体力面での伸びが実感できて，次への意欲につながるように計画しました。

子どもたちが体力がつきにくい要因はいくつかあり，例えばスクールバスでの移動が当たり前の環境やどこへいくにも保護者同伴でしかいけないというアメリカの事情もあると思います。

日本人学校の勤務を終えて思うことは，その国々や学校ごとに特徴は違い，直面している課題も異なると思います。ですからそこに派遣されたときに自分にできることの中で，目の前の子どもたちのためになると思うことをいかに実践していけるかが大切だと思いました。そうすることが日本人学校のためにもなるし，保護者や子どもたちの期待に応えていくということにもなるのではないかと私は感じました。

○指導講評　（岡山県教育庁教職員課課長　平賀和治様）

４人の先生方，無事に帰っていただき，感謝しております。文化，言葉が違う中で勤務されて，ご苦労されたことと思います。

管理職の立場からの話を初めて聞かせていただきました。お二人の先生のお話に共通されていたのは，人間関係，教員の質ということだったと思います。先生はやはり質が大切であると思い，毎年派遣させていただいている我々にとっては，意義のあるお話だと思いました。

現在，日本人学校の希望者が極端に減ってきており，毎年選考に苦労しています。以前は２度３度，５度６度と挑戦される方が多かったと思いますが，今は１度でやめてしまう方があるようです。世界にもたくさんの子ども達がいますので，その子ども達のために教育をしていただける先生方が増えて欲しいと思います。

今日は管理職の立場で学校経営のお話をいただきましたが，子ども達の数によってクラス編成や先生の確保

など非常に大変だと言われておりました。また，道徳心などのお話もありましたが，子ども達には，日本人としての根本的なところ，精神的なところの良い面を大事にし，子ども達にも伝えていかないといけないと思いました。

あと２人の先生方には，初めて日本人学校に行かれて，その国の文化について感じたことをお話しいただきました。写真を見ていて，子ども達が生き生きと楽しく過ごしている様子がわかりました。また，新たな取り組みもたくさんしていただいて，子ども達の力をつけていただいたと思っています。

社会では，グローバル人材の育成と言われていますが，これから我々が目指していくのは，グローバルな立場に立って引っ張っていく，グローバルリーダーの育成です。国際理解教育研究会の先生方にもご協力をいただいて，育成を進めていただけたらと思っています。

○閉会あいさつ（奥山仁副会長）

４人の先生方ありがとうございました。とにかく任期を全うされ，ご無事でご帰国され，大変にお疲れ様でした。海外勤務の希望が少ない中で手を挙げて挑戦され，いろいろとご苦労があったことと思いますが，勤務を全うされたことに敬意を表したいと思います。今後はそれぞれの場所，様々な場所で経験を生かしていただきたいと思います。今日は先生方に有難いお話をしていただいたこと，感謝をしております。

＜歓迎会＞

○開会あいさつ（山本義人会長）

今現在岡山から２０名の先生方が派遣されています。そのうち４名がシニアの派遣となります。今回帰国された神田先生は，シニアで行かれていましたが，３度目の派遣ということで海外のオーソリティであります。４年間タイのシラチャで務めていただきました。春日先生はオーストラリアのパースで３年間，そして山本先生はアメリカのニュージャージーで３年間，そして守安先生は中学校の県予選の関係で歓迎会には参加出来ませんけれども，メルボルンで３年間務めていただきました。他にも今日は参加されていませんが，外園先生が上海，徳広先生がニューヨーク，小坂先生がヨハネスブルクに勤務され，帰国されました。

大変な世界情勢の中で派遣教員が減っている現状があるようです。こういった会や勤務校でお話をしていただいて，海外に行ってみたい声がありましたら，ぜひ声をかけていただきたいと思います。私も２回派遣していただきましたけれども，シニアでもいけたらなと考えています。みなさんも，２度３度機会があれば行っていただきたいと思います。

では，この会では午前中に聞けなかった苦労話や楽しかった話がたくさんあると思いますので，会食しながら聞かせていただけたらと，楽しみに思っています。

○歓迎の言葉・乾杯（赤松康弘参与）

久しぶりにこの歓迎会に参加させていただきました。帰国された先生方，そしてご家族の皆さま，大変お疲れ様でした。いろいろとお話を聞かせていただきたいと思います。私も１９９０年にイギリスのニューカッスルに派遣されまして，２５年が経ちます。当時はまだワープロの時代で，それを担いでいった記憶があります。

私と一緒の時に派遣された先生が，遥か日本のことを思って涙したということをよく言っていましたが，それだけ日本とは隔絶されていた時代もありました。先ほどの報告会で国際

理解というのが，今現在未熟ではないかというお話もありましたが，私の住まいしている地域や学校でも国際理解のお話がほとんど聞けないことは残念です。願わくは，ここにいる先生方，ご帰国された先生方がご自身の住んでいる地域や小・中学校で，派遣の経験などのお話をしていただいて，より国際理解教育が発展していく方向に進んでくれたら嬉しいと思います。

○帰国者あいさつ

神田　進先生

午前中には話していない部分が有ります。蜂が大軍で運動場が真っ黒くなるくらいいたり，ニシキヘビのでかいのが出たりすることがありました。危機管理という面では大変でした。猿が出たこともありました。体育館の屋上で棒をもって追っ払っているのは誰かと思ったら，校長がしていたと他の先生が言っていて，笑い話になっていました。

一歩外に出ると，田舎なので治安的には厳しい面もあったかなと思います。朝早く学校に毎日歩いていっていましたし，帰りも歩いて帰っていました。他の先生方には，一人で行動しないことや，夜は出歩かないように言っていました。野犬が多く，教頭は追いかけられて走って逃げたと言っていましたが，それではダメだと言いました。私は野犬をえさで手名付けました。私は時々えさを与えていたので，私が歩くと犬がみんなついてきますので，野犬が護衛に付いてくれてるなと思っていました。

神田先生の奥様

４年間という長い時間でしたが，貴重な体験をさせていただいて，無事に帰国することが出来ました。最初は２・３年かと思っていましたが，４年目も管理職として残ってくれないかと言われ，主人と共に過ごして参りました。私は配偶者会をしており，１４・５名の配偶者さんと一緒に過ごしました。新設５年目ということで１冊のノートを片手に不安な中でしたが，手探り状態で活動しました。年々奥様達も若くなり，考えや価値観の違いなどもあり，声かけ，目配りが少し大変かなと思いました。配偶者の中には，タイ人の方，文科省派遣の方，現地採用の方がおり，立場上の違いなどで，みんなをまとめていくのが大変な部分もありました。

配偶者会の活動は月２回集まって，現地校と交流したり，日本人学校に行って先生達や現地スタッフの方と交流したりするなど，年間のいろいろな行事を通じて楽しく過ごすことができました。

また，年に１回東アジアの配偶者会の会議がありましたが，そこに参加させていただいて，国によって違うことがたくさんありますが，同じ立場で相談したり情報交換したりすることが，とても有意義でした。その会が無くなると聞いて残念だなと思いました。４年間，貴重な体験ありがとうございました。

春日　二郎先生

私は，あちらで小学校４年生から中学校３年生まで，全部理科を担当しました。これはものすごく有意義でした。この成果をもって，岡山に帰って･･･と思っていましたが，小学校に勤務することになりまして，小学校は大変でしょうと言われますが，日本人学校での小学校経験がありますので，非常に楽しくさせていただいています。

向こうには配偶者会もなくて，日本人会の中での妻の役目もなくて，このまま家に引きこもるんじゃないだろうかと思っていましたが，近所づきあいは全部妻がしておりまして，幸いなことに興味を持っていろいろなことをしてくれるので，苦手だった英語もいつの間にか妻の方が上達していました。買い物に行くと，あそこで折り紙をしているわ。私の折り紙をあげようかしらと言って，バッグの中から折り紙を出して，すっかりその人と仲良くなっているなんてい

うこともありました。妻は朝から晩までテレビを見ているものですから，私よりも英語になれていて，町へ出た時には大概妻が聞いてくれまして，そんなことを言っているのかと，そのあと，たどたどしくこちらのことを伝えるなど，２人で１人前の生活をしていました。妻はちまちまと手作業をしてくれていて，ある町の切手屋さんで一袋いくらというグラム単位で売っている切手を買ってきまして，気がついたら，それが並べられて額に入っていました。そんなふうに気がついたら，自分でいろんなことをやってくれていて，こんなことをやってくれているうちはいいかなと思って見ていました。

ＰＴＡの会ではベビーシッターみたいなことをするのですが，保育士をしている関係で子ども達にいろいろな作業をしてもらったり，面倒をみてもらったりして，学校としても大変助かっておりました。任期が終わって私が帰る頃には，奥様も帰られるんですねと言って非常に惜しまれていました。奥さんだけは残してよなんて言われましたが，連れて帰って参りました。

春日先生の奥様

実はパースに行くのが初の海外，初の飛行機でして，初めて飛行機に乗ったら海外で３年間生活しないといけないという過酷な状況でしたが，ポジティブに考えていこうと思いました。英語が出来なかったんですが，ご近所の方もとても親切にしてくれて，交流が始まり，何とか生活することが出来ました。パースはとても治安がいいので，自分で車を運転して買い物が出来るところです。物価は高かったですが，生活しやすかったです。車もとても走りやすく，快適なドライブ生活をすることが出来ました。ナビが苦手だったので，一番最初に地図を買って３年間使いこなそうと思いました。帰る頃にはぼろぼろになって，全てのページに付せんが着くくらいになって，自分の宝物になりました。

向こうでは親子支援のボランティアをさせていただきました。
とても自分の実になりました。向こうにもたくさんの日本人親子がいて，英語を教えようか日本語を教えようかと悩んでいる方が多く，日本語の歌や童謡，手遊びなんかはした方がいいんじゃないとアドバイスをして，持って行った紙芝居や絵本を読んで，とても喜んでもらいました。自分にはとてもよい経験をさせていただきました。

配偶者会も，他の配偶者の方といろいろな話をさせていただいて，今もつながっており，良いつながりをもてた会になりました。海外を希望される先生の配偶者の方がいましたら，怖がらずに，英語が出来なくても言葉が出来なくても，行ったらどうにかなる精神で行ってみたらと言葉がけをしていただけたらと思います。自分のやりたいこと，趣味を持って行けば，流されずに孤立せずに生活できると思います。

今日はありがとうございました。

山本　健太郎先生

妻と息子の３人で行ってきました。行ってすぐに，アメリカの人は悪い人ではないんだけど，「アイムソーリー。」と謝ることはないと聞いていました。どういうことかなと思っていましたが，謝ると自分に責任が出てきたり，いろいろ裁判とかになるということで，まあ，悪かは思わないように言われていました。そんなことがあるのかなと思っていましたが，向こうで車を中古で２台購入し，やっと支払いが終わったと思って信号待ちをしていたら，後ろから追突されました。日本でも事故をしたことがないのに，アメリカでかと思っていました。３列の車でしたが，３列目が全部つぶれるくらいの事故でした。幸い，みんな無事でしたが，追突したおばあちゃんがうずくまっていて大丈夫かななんて思っていましたが，警察がきて，おばあちゃんがこちらにきました。その時に，アイムソーリーと言わない話を思い出しまして，「Ａｒｅ　ｙｏｕ　ＯＫ？」と聞かれました。大丈夫じゃないけど，そう言われたら大丈夫と言ってしまうんですが，あなたが大丈夫ならもういいよといったら，さっと行ってしまいました。結構衝撃でした。

その話を先生達にしたら，いろいろあるけど，“アメリカだから”というキーワードで済ませばいいと言われて，３年間過ごしました。運転免許をとる時も，自分は書類がそろってないからダメだと言われ，隣の先生はＯＫ，同じ書類なのに・・・。まあ，アメリカだから。次の日行くとＯＫでした。よく考えたら，担当の方が違ってたんですね。

妻も英語はしゃべれないんですが，気持ちが通じればよい所があり，妻はリアクションが大きくて，何とか伝えようと言う気落ちが強い人です。私は名前の通り，健康で，学校を休んだことがありません。そんな私がある日，副鼻腔炎になりまして，妻が薬を買ってこないといけないと思って，薬局に行ってくれました。彼女は英語がしゃべれないので，どんな行動をしたかというと，痛みはｐａｉｎというのですが，「Ｍｙ　ｈｕｓｂａｎｄ　ｉｓ　ｐａｉｎ　ｐａｉｎ　ｐａｉｎ.」というジェスチャーをとってくれたみたいなんですね。そしたらアメリカ人の薬局の方が，「分かった。これだろ。」と出してくれたのが，向こうの薬にはリアルな写真が載っていまして，これで間違いないと思って，迷わず購入してきてくれました。私も見た瞬間にこれに間違いないと思って服用しました。次の日に病院に行って確認すると，買ってきた薬も合っていたということでした。

４歳の息子は英語に関して環境にも慣れ親しんで，私たちが一生懸命に聞いてもなんて言ったか分からないことも，息子がこう言ってるよと言うんです。小さい頃から慣れ親しむのはすごいんだなと思いました。

日本に帰ってから，何かあっても，アメリカだからの精神でおおらかにやっていきたいなと思いました。

○閉会あいさつ（鳥居恭治元会長）

今回帰国された皆さま，お疲れ様でした。とても元気そうな姿が見られて良かったです。一番は家族です。家族が元気でないと仕事が出来ません。いろんなことがあったと思いますが，皆さんが元気に帰ってこられて，一番にご家族に感謝してもらいたいと思います。

先生方は岡山に帰ってこられて，国際理解教育の方で役をもつと思いますが，これからもこの会を盛り上げていただきたいとお願いをしまして閉会にしたいと思います。

○会場の様子